

社会福祉法人 ミッドナイトミッションのぞみ会
理事長 木下 宣世 様

2019 (令和元) 年5月20日

監事

南

純



監事

足達裕昭



2018 (平成30) 年度 監事監査報告

監査実施日	2019 (令和元) 年5月 8日 (水)	10:30~17:30
	2019 (令和元) 年5月13日 (月)	11:30~18:30
監査実施場所	介護予防センター 望みの門紫苑荘 多目的ルーム	
対象施設	法人本部及び法人内全施設	

監査事項

1 法人本部関係

- (1) 決算書、総勘定元帳、補助簿、その他関係書類
- (2) 定款、諸規程の整備状況
- (3) 人事、労務関係
- (4) 国及び県の指導監査状況
- (5) 理事会関係
- (6) 事業報告書

上記を監事監査点検表の項目に従い確認しました。

2 各施設関係

- (1) 決算書、総勘定元帳、補助簿、その他関係書類
- (2) 事業報告書に基づく事業運営、利用者の状況、職員の人事等

上記(1)を監事監査点検表の項目に従い確認しました。

上記(2)を施設長からのヒアリングを中心に確認しました。



監査結果

上記監査事項について、2018（平成30）年度の法人、各施設及び事業の運営状況ならびに財産状況を監査した結果、いずれも適正であった。

なお、特筆すべき点や気付いた点については次に記すので、今後の運営において留意または修正を要する事項については適切に対応されたい。

1 運営全般

社会福祉法人ミッドナイトミッションのぞみ会は2016年度に千葉県初の情緒障害児短期療育施設（児童心理治療施設）「望みの門木下記念学園」を設立し、2018年度から専任の医務監も着任してその体制を整えつつある。さらに2019年度には望みの門学園の移転新築工事に取り組もうとしている。いよいよ千葉県下でも有数の統合的福祉事業体として、その重責を担っている職員各位のご労苦に深く感銘を覚えます。

さて、今回は2018年度の報告を伺ったが、各事業部のご努力に深い敬意を表すると共に、さらにその発展を期して、以下に今後の課題を指摘しておきたい。

- (1) 法人は間もなく創立60周年を迎えようとしているが、この事業を更に維持発展させるために、ハード面ではすでに着手されている望みの門学園を初めとして老朽化した施設建物の改修・補強・改築などに取り組まざるを得ないであろう。そのためには、前回は指摘したように、資金面を含めて長期的段階的な展望に立った対策を講ずる必要があると思われる。
- (2) ソフト面では、法人全体の職員数が300名を越え、その利用者もすでに400名を超えているが、東京・富津・上総湊の三地区に分散している。そこで、クリスマスやバザーや地域交流スポーツ大会などを通して交流や意志の疎通を図ると共に、職員全体が法人の創立精神であるキリストの愛と奉仕の精神を継承しつつ、一層の研鑽と資質向上に努め、それぞれの役割と要望に応じていく必要があると思われる。すでに試みられている諸点の実行と一層の充実とに期待したい。
- (3) 各施設において、利用者の安心と安全が職員の努力によって守られてきているが、なお一層の向上を目指して、火災や地震などの災害時に備える訓練や設備の点検を実施すると共に、食中毒や集団感染の防止に努めていただきたい。

2 経理関係

理事会及び評議員会には出席し、要決議事項については適切に審議され、議決されていることを確認しています。

- (1) TKCFX4クラウド社会福祉法人用会計システムを導入し、各拠点毎の入力により、効率的な会計処理が図られています。
- (2) 原子記録としての各拠点毎の金銭出納帳は手書きであり、現金有高金種別残高表に正しく記載されていることを確認しました。領収書等の証票書類は仕訳伝票の裏面に添付する方式、保管も変わっていません。
- (3) 各銀行の預金残高証明書および貸付金残高証明書の原票により預金残高および借入金残高を確認しました。紫苑荘の君津信用組合普通預金残高が金 78,443,497 円と多額となっていますが、資金繰り上3か月分程度の固定費残高が望ましい。
- (4) バザー用口座名義の預金残高 597,487 円は帳簿外預金となっていますが、法人名義口座であり、預金残高証明書にも記載されていますので、法人会計に取り込むか、又は後援会口座とするか検討してください。

(5) 寄付金台帳及び寄付金の授受は受取控えにより確認しました。金銭以外の献品も7割の評価を備考欄に記載されていることを確認しました。

(6) 第一フロンティア生命保険、契約日2018年2月13日10年確定年金保険1,000万円が積立資産に計上されていますが、保険積立金等勘定と区分経理されることが望ましい。

(7) 経理規程に「(補正予算)第21条予算執行中に、予算に変更事由が生じた場合には、理事長は補正予算を作成して理事会に提出し、その承認を得なければならない。但し、法人の運営に支障がなく、軽微な範囲にとどまる場合にはこの限りでない。軽微な範囲とは補正額が5万円未満のもの及び各拠点区分の大区分科目ごとにおける予算額の±10%以内とし、かつ法人合算予算額の大区分科目ごとにおける±0.5%以内とする。」と規定しているが、法人合算予算額の±0.5%は厳しい面が生ずる。多少%を上げて良いと思われま

3 各施設関係

(1) 東京望みの門は、宿泊所としての緊急一時保護やペット連れの入所者に良く対応しており、マナの家は20歳までの児童自立支援の貴重な役割を果たしているが、職員の高齢化に備えて若い職員の育成に努めていただきたい。

(2) 望みの門学園については、千葉県下唯一の婦人保護施設として、また当法人最初の福祉施設として象徴的な役割を担っているが、施設の老朽化に伴い今年度から移転新築工事に着工する予定である。利用者の就労支援に向けて介護初任者研修受講や外出ルールの緩和などへの取り組みはぜひ前向きに進めていただきたい。

(3) 養護老人ホーム望みの門楽生園の稼働率は営業努力によって大きく改善されているが、インフルエンザなどの集団感染防止には万全の注意を払っていただきたい。施設の老朽化に伴い、今年度はエレベーターの取り換え工事も予定されているが、なお全体の点検を怠らず、利用者の安全と安心に留意していただきたい。

(4) 特別養護老人ホーム紫苑荘と富士見の里については、それぞれ利用者の高齢化と介護度アップが進んでいるが、これらに対応するために職員の員数確保や職員間の連携強化およびそのスキルアップに努めると共に、夜勤などで過重な負担が増えないように配慮していただきたい。

(5) 児童福祉施設関係の方舟乳児園とかずさの里については、それぞれ全体的には県の委託に良く応えて成果を発揮していると思われる。なお、乳児園の場合2ユニット化によるきめ細かな対応は評価されるが、職員の員数確保にも努めていただきたい。また、かずさの里の場合は知的障害児や虐待児が増える中で職員にはスキルアップやきめ細かい指導と連携が求められよう。

(6) 児童心理治療施設(情緒障害児短期治療施設)木下記念学園にはなお試行錯誤が伺われるが、職員にも児童にも次第に安定した関係が築かれてきていると思われる。昨年より医務監が着任したことにより、その働きの一層の拡充が期待される。なお、職員の研修と連携に努め、待機児童の受け皿になっていただきたい。また、児童家庭支援センター・ピーターパンの家と臨床心理室の活動も上総地域における貴重な働きとして富津市役所内に相談室を持つまでになっているが、その期待に応えていただきたい。

(7) 障害福祉部に属する就労継続支援事業新生舎は、市原市から南房総市に及ぶ利用者を得て、それぞれ園芸畑作・機織り・製パン製菓の三部門に分かれて自立に向けての支援が順調に進められていることが窺われる。共同生活援助事業グレースホーム、地域活動支援ヨカデイサービスセンター、および障害者相談支援事業ベテルの活動もそれぞれの役割を果たしているが、利用者が高齢化する中で、新生舎やグレースホーム以外の外部からの登録者をも増やす必要があ

と思われる。

- (8) 地域福祉部関係のデイサービスセンターは、学園の移転新築に伴ってそちらへの移行が検討されているので、リハビリや食事の提供など独自の付加価値を発掘して利用者増に取り組んでいただきたい。なお、職員の確保・介護力アップにも積極的に取り組んでいただきたい。また、老人居宅介護事業の在宅ホームヘルプサービスや訪問看護事業の看護ステーションはそれぞれ競合の激しい分野であるが、伝統と新しいスキルを発揮して、今後とも地域福祉の重要な一翼を担っていただきたい。なお、14年目を迎えた中核地域生活支援センター君津ふくしネットと富津地区地域包括センターとは、それぞれの地域との連携を深めつつ生活困窮者の自立支援等に積極的に取り組んでいただきたい。
- (9) 住宅型有料老人ホームの望みの門ハイムについては、入居者定員11名に対して8名前後の利用者が続いており、利用者増のために県内諸教会への宣伝活動などを進めると共に、同種の施設が増加している中で利用料の再検討なども課題であろう。